

子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第43号
2021年
1月発行
今期第3号

発行が遅くなり
すみません。

2020年 12月 8日

子どもとメディア全国ミーティング ホスト・司会: 古野陽一氏

☆子どもとメディア北海道から4人参加しました。(池田・工藤・佐藤・中谷)

☆当日の様子を、池田さんがメモしてくれました。コロナ禍で全国の啓発者が抱えている悩みや課題、工夫など、メモをほぼそのまま掲載させていただきますので、読み取って下さいませ。

1 古野氏から今回の趣旨の説明

- ・全国ネットでどういう活動をしていこうと考える中で、一度全国で交流しようと考えた。
- ・近況報告をしあい知り合うこと、今後どうしていくかを話したい。

2 参加者と自己紹介コメント

二見 志信氏 (子供とメディア宮崎事務局長)

授業の一環として、宮崎市教育委員会と連携して、小中学校で講座をやっている。私は11校回った。12月までで全ての学校を回る予定。全国フォーラムのすぐ後に、宮崎フォーラムを実施した。コロナ下で教育委員会との連携ができていなかった。ようやく今月、予定を決められた。今後、川島教授を呼んだりしたい。

梶 聖悟氏 (長崎市)

5年前から、県でメディア安全指導員を育成している。元々長崎市は行政のバックアップが少なかった。山田まり子さんに来てもらい、12月12日に勉強会をする予定。

大町 俊介氏 (長崎県、佐世保市メディア安全指導員)

今年は年間15回くらい講話をした。(例年より)少ない。コロナで中止、延期が今年は多かった。

笠原 晶子氏 (NPO こどもみらいネットワーク鳥取)

山口や島根、関東に行くことが多い。コロナ下で、3月から完全に無かった。8月に久しぶりに長崎に行った。10~11月は多かった。合わせて、コロナ下の子どもたちの様子を聞いて回っていた。組織として、年間900~1000回依頼を受けていたが、今年は減っている。予算も減っているので、個別に来た依頼のみ受けている。

池田さん、記録あり

がとう! 感謝します。

中島 匡博氏（島根こどもクリニック）

コロナでフォーラムなどが中止になった。県の派遣事業で、10人くらいの色々な職の人が講師になり、小中高校、専修学校でネットやメディアの啓発の話をしている。コロナ下でメディアに浸り、体調不良な子が増えた。それまでも居たが、一層際立っている。学校にICTが入り、未知の影響を心配している先生がいた。

山田 弘幸氏（島根県よしか町）

学校への講師に、島根県からの依頼で派遣されている、コロナ下で制限がかなり、中学校1、小学校1だけ。子どもたちが春先、自宅にこもる状況になっていて心配だった。

石瀬 尚美氏（横浜市在住、元長崎県メディア指導員）

横浜に来て、最近行政の勉強会などやりだした。

矢野 さと子氏（子供とメディア関東、清瀬市在住）

茨城に30年いたので、そちらから講演の依頼がある。今年は8月にオンライン配信の講演の収録をした。板橋、練馬区の保育士さんに講演した。子供とメディア関東主催のオンライン学習会も、無事終了した。

成田 弘子氏（子供とメディア関東、埼玉県蕨市在住）

蕨市のアウトメディア推進大会（開始）から10年目。今年度は中止。来年10周年をやる予定。年1回、メディアについて考える集まりを市主催で行っている。オンライン授業について、蕨市として考えていきたいと提案中。

森 安恵氏（子供とメディア関東、渋谷区在住）

子どもでなく大人対象の活動をしている。渋谷区は小学校全てにタブレットを配っている。小さい子の実情がわからないので気になっている。

笠松 直美氏（NPO 法人地域教育ネットワーク、埼玉県ネットアドバイザー）

乳幼児から思春期までのメディア対策をしている。コロナ下でも講演の依頼は多い。SNS問題がコロナ下で重要だったり、頼まれる。ネット依存が各年齢層で問題。GIGAスクール構想では、保護者に対するメディアリテラシー教育が学校に義務化されている。

大谷 良光氏（子どものネットリスク教育研究会代表・ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会共同代表）

今年12月で3年。やっと体制ができてきた。1月に、1日研修（8:30から10:15）をオンラインでやった。同じ内容を、平日と休日に行ったら、平日の方が参加が多かった。仕事の自主研修扱いで参加できた人もいた様子。オンラインでやるときの工夫として、疲れるので講義の時は画面を閉じてと謂う、休み時間は画面から離れてもらう、ということがある。

伊藤賢一氏（群馬大教授）の、小学生対象の疲労度の調査が、伊藤氏のホームページで見られる。

【※池田補足：群馬大のホームページでも公開されています。】

神奈川は遅れている。一番がんばっているのは青森。共済組合会、共済会が5人のインストラクターを派遣してくれる体制になっている。

中谷 通恵氏（子どもとメディア北海道事務局）

コロナの悪化が早めに来たので、4～8月の依頼が全てキャンセルになった。（北海道には）メディアインストラクターが16名いるが、道との連携が無いので個人活動状態である。

12月の活動もキャンセルになった。子供とメディア北海道全体で、例年60～80件の依頼があるが、今年は今のところ年間40件くらい。情報誌を年4回出している。ホームページに情報誌を載せている。メーリングリストで情報交換している。

個人的には、今年は今のところ10件で、小学校（児童対象や就学時検診時の保護者向け）が主だった。ゲーム、SNSの問題が多い。就学前の幼児が心配な地域もあった。

工藤 美栄子氏（帯広市稲田小学校勤務、子供とメディア北海道インストラクター）

小学2年生を担当している。7月の終わりに、2年生1クラスずつ、メディアの授業を行った。10月には大樹、東小学校、自分の学校の新入学生の保護者に講話を行った。それを聞いた保護者の中で興味を持った有志で、ZOOMも活用しての講話ができた。12月にもう1校、市内の学校で授業をする。

自分が関わった子供で、ゲーム依存で親に暴力をふるってしまった事例があり、子どもの様子が心配。

池田 亮子（子供とメディア北海道インストラクター、北海道ペアレントメンター）

コロナで住んでいる町内の施設の利用が制限されており、中学生の息子が友達と遊ぶ場所が無く困っている。私が個人的に相談を受けている方だけでも、工藤さんのお話のように、依存関連で本人や家族が困っている例が4件もあり、北海道全体では相当あるのかなと思っている。

高校生の娘がオンラインの遠隔授業を受けているが、端末がスマホなので目が疲れたり、食事しながらとかいい加減な参加の仕方でも何とかなったりと、見ていて色々考えてしまう。

佐藤 彰良氏（旭川市六合中学校勤務、子供とメディア北海道インストラクター）

勤務校の3クラスでメディアに関する授業を行った。あと、生徒の面談に合わせてメディアに関するアンケートを行ってもらった。アンケート結果を指導に使ってくれる先生も出てきている。メディア依存の予防を、いかに学校活動に組み込んでいこうかと考えている。

3 意見交換

★コロナ禍での学校教育でのネット利用について

池田：娘の遠隔オンライン授業が心配。

佐藤：普段なかなか聞けない授業の、オンラインの一斉授業は行った。各家庭のWIFI 機材の整備状況が不安定で、個別対応も必要だった。

古野：休校時に一番効果があって、妥当だった方法の例がある。東京の先生の方法。

朝の会、帰りの会は一斉に行い、何をやりたいか生徒と協議する。あとは先生がzoomをつなぎっ放し。決まった授業はせず、その都度質問に答える。

上手くいかなかった例としては、一斉型授業で、90分の講義を一方的に行う方法。

梶：うちの大学は、ネット環境が整っていない学生が多い。そういう生徒のために、教室を一つ用意しないと授業が成り立たない。スマホの小さい画面で授業が上手くいくとは思えない。やった授業の動画を見れるようにもしている。

工藤：うちの学校はプログラミング推進校で、プログラミング担当の先生がいる。いろいろな機材も入った。活用できるようになるためには大変。特別支援クラスで、(生徒)4人で一つずつiPadを使って授業をしていて、これって必要なの?と思った。子供は喜んではいる。

古野：特別支援の子へは、識字障害対策など(I T機材は)有効性はあるが、はまりやすい。諸刃の剣。

★通信環境・保護者の課題

笠松：I T教育には、市町村格差がある。ベネッセなどと連携できている市町村はいいが、そうでないところは困っている所もある。文科省から正式にやり方が下りてきてはいない。親の教育意識格差で、子どもの学力差が出てきている。親の機器の使い方のモラルがひどい。(家庭学習を報告する約束になっている学校で)子どもの学習の報告を夜中にしたり、先生のやり方に誹謗中傷、ツイッターでネットに拡散している。人権侵害。障害児のタブレット教育では、砂時計とかの目に見えるもので調整するのが有効。

古野：(オンラインで)親が授業を見れるため、批判してしまう。先生も慣れていない。ギガスクール構想は、単に機材を揃えればいいわけじゃない。

★G I G Aスクール構想の現状

大谷：子供たちの学習の個別化、分断化が大きな問題。経産省が主導してギガスクール構想を進めている。国費ですべて補助はパソコンのみ。校内ネットワークは自治体補助なので、予算が続かない。青森県の例では、端末が無く6割はスマホで参加した。1~2割の子供は学校に行かないといけなかった。市の予算でやっと、中3の38人分のパソコンが入った。電子黒板も入った。

使える先生と使えない先生がいて支援も無かった。子どもたちが先生を評価し先生が分断されて嫌な雰囲気になった。これで、I C Tがいけない、パソコンがいけないと言う先生が増えるのも問題。

古野：政権が変わって、(ギガスクール構想の)主導権は文科省に戻ったはず。

笠松：うちは3年生以上に(機器が)入ることになっている。持ち腐れにならないようにと意見は言っている。支援する人を増やしてほしいと言っている。

中谷：北海道は進捗状況としては遅れていると感じる。都府県の1~2年あと。一方、ギガスクール構想では、発達段階を考慮してという考え方が殆ど聞こえてこない。幼児期に、意欲、自発性、想像力、コミュニケーション力を育てないと、I C T教育の良さを生かせないのではないか。

「ネットの学びとネットの遊びを、分けて考えませんか?」と学校、保護者さんに話している。ネットの学びの良いところは活かして、量は調節が必要。

★電磁波の心配が・・・

成田：中谷さんに同感。新井さんの著書で、東大生の例で、リアルの生活の中で力を身につけておかないと、I C T教育も(頭に?)入ってこないということが書いてあった。

校内どこでもWi-Fi化したら、1校4~500万かかる。早く手を挙げれば文科省の補助があるらしい。子どもたちの電磁波の被ばくが心配。

矢野：ギガスクール化は保護者には止められない。ネットで得た情報は実際に体験させてあげてと話している。電磁波の問題は欧州では厳しく規制されている。過敏な子が頭痛を起こしたりしても、理解されない。

池田：私の中学生の息子がたまたま生まれたときに低体重で、北大から発達の追跡調査を受けている。今年初めて、無線通信と子どもの健康の関連についての調査が来た。無線機器の使い方などかなり詳しい内容で、結果が出るまで数年かかるそうだが楽しみにしている。

古野：端末が体の近くにあるのが良くない。距離と周波数が大切。5Gは2種類電波が飛ぶ。欧州は電波にとっても敏感ということは、知っておいた方がいい。

★学校の現状

佐藤：ICTもギガスクールも負担感が大きい。我々（教員）は専門家ではない。教委に、2～3校に一人でよいので、専門家を付けてくれと要望しているが、予算上難しい。やっていかなければと思うが、健康被害のことも並行してやらないといけない。先生方で理解している人は少ないし、保護者も少ない。やはり学校で健康被害を伝えていかないと。

学校には、食育、ネット他いろんなジャンルの人が飛び込みで講話などをさせてと言ってくる。1回くらい話を聞いても残らない。活動している人たちにお願いしたいが、仕掛け方やタイミングを戦略的にやってほしい。これからの時期、来年度の計画を立て始めるので、学校教育が入ってきてもらいやすいカタチを作ってほしい。先生方は余力がない。

★伝える時のポイント

大谷：文科省は情報モラル教育まで。拙団体では、脳、目、睡眠への影響をまとめ、発信し始めている。モデル授業を中学で行う予定。

- 1 タブレットの片視力低下への影響。
- 2 キーボードで書くことの脳への影響。

大町：啓発に関連して、4つのカテゴリズをしている。

- 1 依存
 - 2 発達
 - 3 情報の偏り
 - 4 ネットトラブル
- 直接保護者と話すと反応が見える。

★これから・・・

中島：学校で長時間やってしまい、家でもネットやゲームでは、健康への影響が心配。本当にICTは有効なのか。欧州では紙媒体に戻す活動もある。使い分けは必要。ZOOMは有効な手段だが、日本の子供たちは遊びで使ってしまう。本来の使い方を、子供たちに教えていくことも必要。コロナ下で、ICTのいい面と悪い面が際立っている。何年後かに、コロナが終息した後、ICTをどう使うか、真剣に考えていかないといけない。

石瀬：乳幼児の発育を大切にしていきたい。

古野：今月か来月にもう一回やりたい。山田さんの講演をオンラインでやることも考えたい。

【報告してくれた池田さんの感想】

メモを読み返して、私がギガスクール構想というものを、ほとんど分かっていないことに気づきました。これから勉強しないといけないと思います。

ちなみにうちの子どもたちが通った豊富小学校は、割と早くから電子黒板やタブレットが導入されていました。はっきり覚えていませんが、7～8年前からだと思います。現在高2の娘が高学年の時は、理科の授業参観で、実験の実演を先生がタブレットで撮影してモニターに映すといった使い方を見て、教卓に集まらせればいいのにと思ったことや、息子の場合は、タブレットの魅力にとらわれてトラブルになった事を記憶しています。

学校全体で導入するとしたら、相当に工夫が必要に感じます。

白老町子育て支援課(訪問型家庭教育支援)主催

2月6日(土)、白老コミセン

スマホ依存から脳を守る～コロナ禍の影響についても～

北仁会旭山病院精神科医長 中山 秀紀氏

★当日のパワーポイントの資料を、枚数は多いですがそのまま配布しますね。中山先生は、「出所(中山先生の資料)を明記してくれれば、啓発活動に利用して良い」と許可して下さいました。ナカヤのメモ書きが少し散見されますが、お許しください。

★今回、「子どもとメディア北海道」の会員からは、三國さん(北広島)、工藤さん(帯広)、野澤さん(日高)、菊地さん(札幌)、横山さん(苫小牧)、西村さん・北平さん・吉原さん・中谷(白老町)、9名の参加がありました。講演会後に1時間程度ですが、インストラクターとの交流の時間を持っていただき、質問をさせてもらいました。コロナ禍のため窮屈ではありましたが、やはり直接お会いして学びや交流ができる良さを感じました。参加のみなさん、ありがとうございました。

★みなさんの希望が多ければ、中山先生をゲストに迎えての研修会を(オンライン開催も含めて)考えたいと思います。希望の方は連絡くださいませ。

【 講演の中で、個人的に印象に残った内容 】

●依存しやすい物質や行為(依存物)の特徴

① 快樂をもたらす

② 飽きにくい・飽きない

} この特徴にインターネット・オンラインゲームがあてはまる

● 依存しやすいものは、その人にとって「やりすぎる」と依存症を発生する可能性がある。しかし、どのくらいがやりすぎにあたるのかわからない。← 啓発する場合に心得ておく必要あり。

● 依存症の2つの症状

① 正の強化(快樂を求めて依存物を使う) → この段階の人が多い

② 負の強化(依存物を止めると不快になり、不快を解消するために依存物を使う) → 依存症特有の症状

● 「不快な気持ち」に耐え続けるのは至難の業である。本人の努力だけでは難しい。

→ だから、「負の強化」の症状に至らないように「予防」するのが何より重要となる。

●なぜ今インターネットやゲームが問題なのか？

→オンラインゲームの出現によってゲームによる「快樂」に加えて「無限性」を持つようになったから

●先生ご自身の調査（公立中学校8校の中学1年生への調査など）や、学会で発表されているデータなどを取り上げられました。

- * ゲームの依存度と就寝時刻・休日の起床時刻・授業中の眠気などには相関関係あり
- * テレビ利用時間は就寝時刻差が少ないが、ゲーム利用時間が長めの人には就寝時刻が遅い
- * ゲームの依存度が高いほど、成績の評定や大学での進級率が低い
- * インターネット使用障害・依存者は全般的に精神状態が悪化する
- * インターネット使用障害とADHD傾向は関連あり
- * 幼少の時からゲームを習慣的に使うことで後に依存傾向が強くなる

●インターネット・ゲームの問題使用・依存の治療目標は、「断ネット・ゲーム」ではなくて「節ネット・ゲーム」にならざるを得ない状況

●一家庭でのルールづくりより、学校全体、地域全体でのルールづくりの方が効果がある

●依存症にならないための特殊な方法は、ありません！

- * 依存物と距離を置く時間をとる（就寝時間・勉強の時は近くに置かない）
- * 依存物を使えない状況に身を置く。またはそのような行動をとる（部活・習い事・趣味など）
- * 別の集中できることをする
- * 規則正しい生活の維持（特に就寝時刻）

●依存症を予防する家族のできる主なアプローチ

- * 幼少期からのネットやゲームの習慣的使用は避ける
- * 就寝時刻を厳守させる
- * ネットやゲームの使い方について話し合う（
- * ネットやゲーム以外の楽しい活動を促進（誘う）

※「しつこく」ネットやゲームの利用を注意する→しつこく注意するのは「無効」もしくは「逆効果」とされています。ただし最小限のことは言った方が良いでしょう。（就寝の促しなど）

中山先生は、講演後の交流会でも「就寝時刻を守らせる」ことを強調されていました。

★家庭で、ネットやゲームの利用時間を守らせていくのは至難の業なので、多くの親は程度の差こそあれ、「しつこく」やり過ぎを注意していると思います。でもしつこいのは無効・逆効果とのことなので、啓発していく私たちとしては、ネットやゲーム以外の楽しい活動（おもちゃやボードゲームや読み聞かせや外遊びやお料理など）を意識して家庭に持ち込むことを、これまで以上に勧めましょう。

私も、「ルールづくり」をする時の発達段階に合ったかわり方・・・つまりは子育てのコツを話しますが、その話の方が親御さんに喜ばれている感じがします。両方伝えていくことが必要ですね。

★G I G A構想に基づいた学校教育でのICT教育の推進について、中山先生の考えは。時代の流れは止められないが、注意すべきことがある。一人1台と配布されたタブレット等が、学習のみの使用に限定されていないと、子どもたちは快樂を求めて使う可能性が高く依存を誘発してしまうのでは？また、発達障害の傾向がある子どもたちは、ゲームなどに依存しやすいので、それ以外の活動をさせるように家庭や地域で特に守る必要がある。

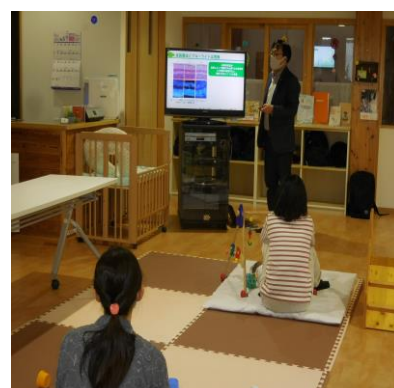
★「ネット・ゲーム依存」で不登校気味になっている児童生徒についての相談を受けた時、どこを紹介したらよいのか？→本人が治療したい意思があれば、精神科や小児科などで相談するのも良いのではないかと。他の問題がある場合は薬を出すこともできる。本人ではなく家族の相談（実際は多い）の場合は、まずは、精神保健福祉センターや保健所への相談、学校だとスクールカウンセラーなどになるのでは？

2020年11月から2021年1月までの活動報告

月日	テーマ・内容	行事名・主催者等	担当
11月4日	インターネットと人権	北広島市広葉中学校1年生	三國
5日	上厚真小学校就学時健診	厚真町教育委員会生涯学習課	菊地
6日	江別市野幌若草小学校5年生 情報モラル講話	江別市教育委員会	中谷
11日	インターネットと人権	北広島市立東部中学校全校生徒	三國
12日 13日	5講座（小学5年生向け2講座、保護者・支援者向け、幼稚園先生向け、専門職向け）	羅臼町教育委員会	中谷
17日	保護者向け子育て講話	むかわ町立宮古小学校	中谷
	元気に学校生活を送るために	帯広市立稲田小学校 新入学時健診	工藤
19日	恵庭市子ども家庭課市資質向上研修会 コロナ禍の遊びを考える～今、私たち大人にできること～	恵庭市子ども家庭課	菊地
26日	子育て支援センターでの乳幼児親向け講話	厚真町教育委員会	櫻井
30日	メンタルヘルスセミナー・メディア依存について学ぶ～電子メディアが子どもたちに与える影響から～	上川振興局	諏訪
	スマホ社会の子育て	帯広市乳幼児の保護者有志	工藤
12月3日	インターネットと人権	北広島市立大曲中学校2年	三國
	島牧村小学校高学年・低学年＋保護者講話	島牧村教育委員会	中谷
4日	インターネットと人権	北広島市立緑陽中学校全校生徒	三國
10日	ネット・ゲームから自分を守ろう	帯広市立開西小学校6年生	工藤
12日	生きる力を育むおもちゃ～子育てに役立つ遊びのヒント～	共和町幼児教育講座	菊地
	黒松内小学校就学時検診時講話	黒松内町教育委員会	中谷
18日	ネット依存 & ゲーム障害 & 学力 他	北広島団地民生・児童委員研修会	三國
	元気な脳でかしこい自分に	帯広市立稲田小学校4年生	工藤
22日	白老町立竹浦小5・6年生 講話	白老町訪問型家庭教育支援事業	中谷
2021年 1月13日	経営者モーニングセミナー 電子メディアが子どもたちに与える影響	旭川市倫理法人会	諏訪
24日	みんなの知らないアナログおもちゃの世界～おもちゃ・ゲーム体験会～	令和2年度男性の子育て講座 千歳市教育委員会生涯学習課	菊地
28日	ネットゲームから自分を守ろう	帯広市立稲田小学校5年生	工藤
29日	江別市文京台小学校5年生情報モラル講話	江別市教育委員会	中谷

11月26日、厚真町子育て支援センターにて（櫻井）

一度にお話しできるのは4～5名と少人数ですが、「何がどう悪影響なのか？」「夫に説明して共有するための情報が欲しい」といったお声があり、しっかりとしたエビデンスのある情報をお伝えすることが求められていると感じています。大きな講座よりも、ゆっくりと対話できる分個別のご相談にもお応え出来て非常に有意義な時間を過ごすことができました！



【事務局からの連絡です】

- ① 「NPO子どもとメディア」から啓発DVDが発売されました。学校の先生が、教室で子どもたちへの情報モラル教育に使用してもらえようと、わかりやすく親しみやすく作成されています。(申し込み用紙を入れました。)

インストラクターの方でも、小中学生への啓発資料に悩まれている方もいらっしゃると思いますので、ぜひ活用されると良いと思います。価格が結構高価なので、「どんな内容か見てみたい」と思われたのでは・・・？ お任せください(笑)！ ナカヤ、個人で三巻とも購入しました。ご希望があれば、DVDを見てもらえるような研修会をZOOMで行うこともできますので、ご希望があれば、連絡くださいませ。

- ② 会計についてです。二つ謝らなければなりません。一つは本来なら、昨年の秋にみなさんに配布しなければならなかった2019年度の収支報告でしたが遅れてしまい、今回配布いたします。申し訳ありません。二つ目は、2018年度の収支報告で、支出の部での記載漏れがありました。そのため、今回、2018年度と2019年度の収支報告書を配布します。お気づきの点があればご意見下さいませ。

- ③ 事務局からの提案です。みなさんから、小冊子や書籍(主にNPO子どもとメディア発行)を購入したいとの問い合わせを受けることがあります。ナカヤは、個人的に、小冊子なら100冊単位で、書籍も複数冊購入していることから、ナカヤの自宅から郵送することがあります。その際の送料を「子どもとメディア北海道」の会計から支出したいのですが、いかがでしょうか？

「子どもとメディア」発行の小冊子や書籍を、少しでも多く手に取ってもらえることは、会の目的に合っていると思うのです。私も残部が減って助かります。ご意見のある方は2月末までにお願いたします。ない場合は、ご理解いただいたとおさえて、送料無料で小冊子・書籍・DVDなどを送らせていただきます。欲しい物がある場合は、事務局にお問い合わせください。



2月6日、白老コミセン、中山先生講演会と交流会